

令和4年度マイスター・ハイスクール事業  
中間成果発表会

# 「新たな社会を支える次世代マイスターの育成」を目指して

## ～「マイスター・ハイスクール事業」取組報告～

次世代を担う  
先端産業分野で活躍  
できる人材の育成



埼玉県立大宮工業高等学校  
*Saitama Prefectural Omiya Technical High School*

## ■学校紹介 学校の概要

◇ 97年の歴史と伝統を有する埼玉県を代表する工業高校（大正14年創

### ■ 教育目標

- 1 心身共に健康で自主的精神に充ちた、積極性のある個性豊かな魅力ある人間を育成する。
- 2 感受性が豊かで思いやりのある、視野の広い、社会性を身につけた国際社会に通用する人間を育成する。
- 3 現代工業の基礎的知識、技術・技能を身につけ、つねに科学的に考え、行動に当っては骨身を惜しまない実学の徒を育成する。

#### 4 目指す学校像

日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成  
～ 中学生に憧れを! 在校生に自信を! 卒業生に誇りを! ～

### ■ 令和4年度の重点目

- 標) 主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る。
- (2) 自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する。
  - (3) 物事を探求できる力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する。
  - (4) 協働教育による開かれた学校づくりを推進する。

### ■ 設置学科

#### 機械科

- 2クラス 80名 (40名×2)
- 機械設計, 金属加工

#### 電気科

- 1クラス 40名 (40名×1)
- エネルギー, 情報通信

#### 建築科

- 2クラス 80名 (40名×2)
- 建築設計, 木材加工, 施工

#### 電子機械科

- 2クラス 80名 (40名×2)
- ロボット, 制御

#### 工業技術科

- 2クラス 80名 (40名×2)
- 機械コース, 建築コース

### 進路状況

#### 令和3年度卒業生実績

就職	62%	大学・短大	19%
専門学校	17%	進学準備他	2%



# ■学校紹介 本校における生徒育成の考え方 ① ～ 令和2年度



県立大宮工業高等学校

～ 生徒の成長物語～

目指す学校像

人間性豊かな、地域産業を担う職業人の育成

宮工の目標

「協働教育」

～地域・企業・学校が連携したものづくり人材の育成～

宮工トリプル100

- ・就職内定率 **100%**  
自己実現を図りながら、地域産業を担う生徒の育成
- ・大学進学現役合格 **100名**  
先端技術に参画し、スペシャリストとなる生徒の育成
- ・国家資格取得者 **100名**  
自ら知識・技術を高め、チャレンジする生徒の育成

キャリア教育全体目標

3年間のキャリア教育をとおして、  
企業が求める人材を育成する

自己実現【3年次】

- ・進路活動の実践を通して自己実現を図る
- ・県内トップレベルの求人倍率と丁寧な進路指導
- ・カレッジコースによる理工系大学進学対応

自己開発【2年次】

- ・企業、大学等の協力を得ながら働く喜びを学ぶ
- ・インターンシップ（地域企業との連携）
- ・公開講座、出前授業（公民館や児童館との連携）

自他理解【1年次】

- ・地域の方々の協力を得ながら貢献する喜びを学ぶ
- ・見守り隊（さいたま市立泰平小学校との連携）
- ・地域清掃活動（本郷町自治会等との連携）

各科の生徒の成長目標

機械科

産業界で活躍できる  
工業人の育成

電子機械科

先端技術に対応できる  
技術者の育成

豊かな生活を支える  
技術者の育成

電気科

建築物をデザインで  
きる、技能有した技  
術者の育成

建築科

部活動・愛好会

- 柔道部  
R1 選手権大会埼玉県予選  
女子52kg級優勝
- ラジオ部  
H30 国際大会(イギリス)  
第3位
- R1 モデルロケット全国大会  
定着着地競技 優勝・準優勝
- R1 第8回「ものづくり日本  
大賞」内閣総理大臣賞受賞

学校行事

- 1学期  
・遠足〔5月〕
- 2学期  
・体育祭〔10月〕  
・宮工祭(文化祭)〔10月〕  
・インターンシップ〔11月〕  
・強歩大会〔11月〕
- 3学期  
・課題研究発表会〔1月〕  
・修学旅行(2年)〔2月〕  
・学科別校外学習(1年)〔2月〕

資格取得・コンテスト等

- 国家資格  
・第二種電気工事士  
・第一種電気工事士  
・二級建築施工管理技士  
・工事担任者(電気通信)  
・危険物取扱責任者
- 国家検定  
・技能士(普通旋盤、  
建築大工、とび)
- コンテスト  
・ものづくりコンテスト  
電気工事・木材加工  
・溶接コンクール



# ■学校紹介 本校における生徒育成の考え方 ② 令和3年度～



**至誠一貫 質実剛健**  
 中学生に憧れを! 在校生に自信を! 卒業生に誇りを!

## 日本を支え 世界で活躍する人間性豊かなエンジニア



### THE 5 ACTIVITIES

- 協働** Collaboration  
地域や企業・大学等と協働した教育活動
- 行事** School events  
チームワークや専門性を高める学校行事
- 部活** Extracurricular activities  
たくましさや精神力を育む部活動・生徒会活動
- 専門** High expertise  
成功や失敗、ホンモノから学ぶ高い専門性
- 教養** General education  
高い専門性や社会生活を支える一般教養

### 生徒の育成方針

#### 自己実現 (3年次)

進路活動・課題研究などの実践を通して自己実現を図る

#### 自己開発 (2年次)

企業・大学等の協力を得ながら学ぶことや働くことの喜びを学ぶ

#### 自他理解 (1年次)

地域の協力を得ながら社会に貢献する喜びを学ぶ

### 求める生徒像

次の1と2を満たし、かつ、3又は4に該当する生徒

- 1 基礎学力が身につけており、意欲を持って学ぶ姿勢のある生徒
- 2 身だしなみやあいさつ、言葉遣いなどの礼儀や基本的な生活習慣が身につけている生徒
- 3 工業の専門的な知識や技能を身につけ、ものづくりや資格取得に熱心に取り組める生徒
- 4 部活動や地域のクラブ等において一生懸命活動し、地区大会等での実績や優れた能力を持ち、入学後も熱心に取り組める生徒

### THE 5 GOALS

**工学**  
 公共の安全等のために有用な事物や快適な環境を構築



#### トリプル100

就職内定 100%  
 大学現役合格 100%  
 国家資格取得 100%



#### DX

進化したIT技術を高度させ学びをより豊かなものへ



#### SDGs

持続可能でよりよい社会の実現を目指す



#### 5S-KAIZEN

整理 整頓 清掃  
 清潔 習慣(躰)







## □ マイスターハイスクール事業運営組織

(校外)

### ● MHS運営委員会（意思決定機関）

所 属 ・ 職	氏 名
一般社団法人埼玉県経営者協会 会 長（日本経団連中核団体）	原 敏 成
公益財団法人埼玉県産業振興公社 理事長（県内中小企業振興機関）	神田 文男
埼玉県産業教育振興会 会 長	大野 松茂
埼玉県教育委員会 教育長	高田 直芳
埼玉県立大宮工業高等学校 校 長	清水 雅己

### ● MHS事業推進委員会（事業実行機関）

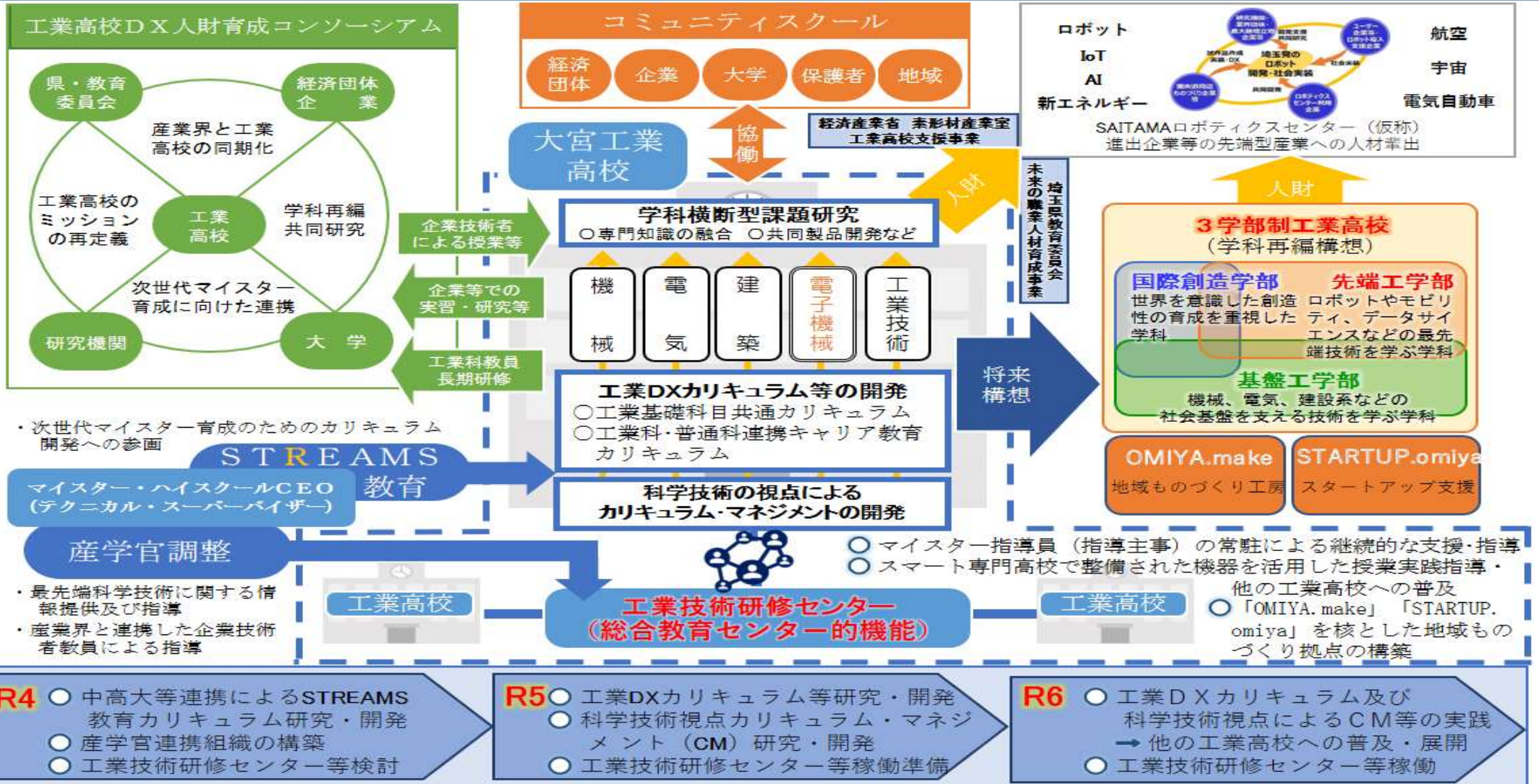
所 属 ・ 職	氏 名
マイスターハイスクールCEO AGS株式会社 企画管理本部	前田 稔
一般社団法人埼玉県経営者協会 専務理事	廣澤 健一
公益社団法人埼玉県産業振興公社 総務企画部長	由井 秀明
株式会社狭山金型製作所 代表取締役社長	大 場 治
日本工業大学 教 授	岩崎 利信
埼玉県産業労働部産業人材育成課 課 長	植竹 眞夫
埼玉県教育局高校教育指導課 課 長	田中 邦典
埼玉県立大宮工業高等学校 校 長	清水 雅己

《参考》産業実務家教員協力企業等  
(順不同・敬称略)

一般社団法人 埼玉県経営者協会  
 公益財団法人 埼玉県産業振興公社  
 AGS株式会社  
 ヤマザキマザック株式会社  
 株式会社 狭山金型製作所  
 藤倉コンポジット 株式会社  
 富士電機機器制御 株式会社  
 富士電機エフテック 株式会社  
 株式会社 関電工  
 岩崎工業 株式会社  
 古郡建設 株式会社  
 関東工業自動車大学校  
 鉄道博物館  
 加須げんきプラザ  
 埼玉県環境科学国際センター

# 本事業によるマイスター育成構想

## 新たな社会 (Society 5.0 × DX時代) を支える次世代マイスターの育成





## □ 令和4年度の実施計画

マイスター・ハイスクール事業の運営のため、マイスター・ハイスクール運営委員会の指導の下、実施校においてマイスター・ハイスクールCEOが中心となり、教職員と産業実務家教員が連携して下記の課題項目に取り組む。

### ○令和4年度の課題項目

- ① STREAMS教育の**カリキュラム内容** 及び **マネジメント方法の研究**、**試行授業**を実施
- ② 次世代マイスターの育成に向けた **外部連携**及び校内全学科の協働製作に向けた、**校内連携組織の構築**
- ③ 機械科・電子機械科・電気科・建築科が協働し、外部指導者による支援を受けながら、**学科横断的に協働したものづくり活動**を実践
- ④ 外部指導者による DX産業や先端科学技術、SDGs等に関する**講演会等**を実施
- ⑤ **次世代マイスター人材の育成**に向けた、**学科改編及び教育課程の刷新方針**を検討



## □ 令和4年度の実施計画

業務項目	実施期間（令和4年4月8日～令和5年3月31日）													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①STREAMS 教育のカリキュラムの研究			→									→		
			カリキュラム研究開発									試行授業		
②校内連携 組織の構築			→						→					
			校内調整			事業推進委員会と連携して活動								
③学科横断的 ものづくりの 実践	→													
④外部指導者 による講演会 の実施			→											
									通年で適時実施					
⑤学科改編と 教育課程刷新 について検討										→				
運営委員会			◎						◎			◎		
推進委員会			◎			◎		◎		◎		◎		

## □ 令和4年度 事業推進の概要

### ■ 最初に取り組む項目

本事業では、次世代マイスターの育成を推進すべく、まずは**次世代マイスターに求められる条件（資格や資質、コンピテンシーなど）を明確にする**ため、考えられる条件を洗い出し、産業界などの人材を**求める側**、本校をはじめとした大学や専門学校など**育成する側**、育成の対象となる**生徒側**など関係者を含めて、幅広く意見を求めることから着手します。

既に文部科学省などの関連省庁の取り組みや多くの学校関係者の尽力によって、調査検討結果や取り組み方針が公表されていることをふまえ、効率的に洗い出しを進めるとともに、求められる条件が時代や環境に伴い変化することも勘案して、**時代の変化に適應できる共通的な条件を中心に選定することとします。**

この過程は、前掲の令和4年度の課題項目①（カリキュラム検討）⑤（学科再編等）に対する共通認識の醸成、③（学科横断的ものづくり）④（外部指導者の講演）の実践・実施にあたっての狙いの共通化になるとともに、この検討や協議の過程を通じて、②（連携組織の確立）に大きく寄与するものと考えます。



## □ 令和4年度 事業推進の概要

### ■ 並行して取り組む項目

#### ● 連携体制の確立（課題項目の②）

前項の「次世代マイスターに求められる条件の明確化検討」の進展を睨みつつ、今後、構築を予定する「工業高校DX人財育成コンソーシアム」の母体となりうる校内外の連携組織を組成します。マイスターに求められる条件の明確化の検討にご協力いただいた組織を中心に、連絡・協力体制をとりつけることから着手します。

#### ● 学科横断的に協働したものづくり活動（課題項目の③）

「外部指導者の指導を受けながら、学科横断的に協働したものづくり活動を実践」する取り組みは、産業界の実情や最新の活用技法などを学ぶ絶好の機会であることから、当面は「次世代マイスターに求められる条件の明確化検討」と並行して推進します。既に内定している産業実務家教員による実施については2学期より試行を開始します。

#### ● 外部指導者による講演会の開催（課題項目の④）

「次世代マイスターに求められる条件の明確化検討」作業に生徒側の考え方や意見を取り入れるべく、本事業のタイトルである「新たな社会を支える次世代マイスターの育成」が求められる社会的背景、本事業の狙いなどについての説明会（兼意見交換会）を皮切りに開催し、受講後アンケートなどを参考に生徒の興味あるテーマ（DX先進企業の取り組みなど）を優先して定期的で開催します。

## □ 令和4年度 事業推進の概要

### ■「次世代マイスターに求められる条件の明確化」を受けて取り組む項目

#### ●カリキュラム内容及びマネジメント方法の研究、試行授業（課題項目の①）

「次世代マイスターに求められる条件の明確化検討」において取り上げられた条件をクリアする生徒を育成・涵養するためのカリキュラムを試作し、試行授業にチャレンジします。また、試行授業による「教師の感触や手応え」、「生徒の反応や意見」を題材にPDCAサイクルを確立します。令和4年度は初の試みとなることから、失敗を恐れず、諦めずに果敢にチャレンジを続け、来年度（令和5年度）以降に繋げていきます。

#### ●学科改編及び教育課程の刷新方針の検討（課題項目の⑤）

「次世代マイスターに求められる条件の明確化検討」において取り上げられた条件を達成するために、「**学科再編、教育課程の刷新**」の**必要性**はもとより、**工業高校の存在意義、果たすべき役割**など広範にわたって検討していくことが求められています。本年度は多くの意見を安易に収束させるのではなく、多様な意見や課題をとりまとめ、来年度以降に方向性を示すこととしたいと考えます。



キャリア形成（発達）に関する調査研究は20年ほど前より数多く行われています。（※）それらの中から産業人としての有益な指標となりそうな育成項目を洗い出し、時代や県内工業高校生の環境に合致すると考えられるものを協議対象として検討します。手始めに対象とする調査結果として以下を取り上げることとします。

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 基礎的・汎用的能力              | 文部科学省（国立教育政策研究所）  |
| 2. 社会人基礎力                 | 経済産業省             |
| 3. 人間力                    | 内閣府               |
| 4. 技術士に求められる資質能力（コンピテンシー） | 文部科学省（科学技術・学術審議会） |

また、以下の指標は、工業高校生とは対象が異なるものの、汎用的な側面もあることから必要に応じて参考とします。

- ア. 就職基礎力（厚生労働省）・・・事務系・営業系職種の採用に際して重視される比較的短期間の訓練によって向上可能な能力
- イ. 学士力（文部科学省）・・・学士課程で育成する21世紀型市民の内容（日本の大学が授与する学士が保証する能力の内容）

（※）キャリア経営に関するこれまでの調査研究は「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター（平成23年3月）に詳述されていますので本書では記載を省略します

前頁に記載した調査研究は、政府各省の諮問等に応じて実施されているものが多いため、一般の企業・団体等（以下、組織と称す）における人事評価項目（近年、重視される傾向にあるコンピテンシー評価項目）とも整合をとり、生徒がこれらの能力を活用することにより就職先の組織において高い評価を受けることのできる項目とすることを目指します。これは、「組織内での好評価（高評価）」が、本人の居場所確保、持てる力の発揮、意欲向上など、好循環を生むとの考えに依ります。

そのため、公開されている大規模組織等の人事評価要素から、能力評価に関連するキーワードを抽出し、前頁で抽出された項目との関連を調査します。

参考とする資料として、

1. 内閣府 人事評価マニュアル および その資料編
2. 企業における人事評価や人材マネジメントに関する各種資料、書籍

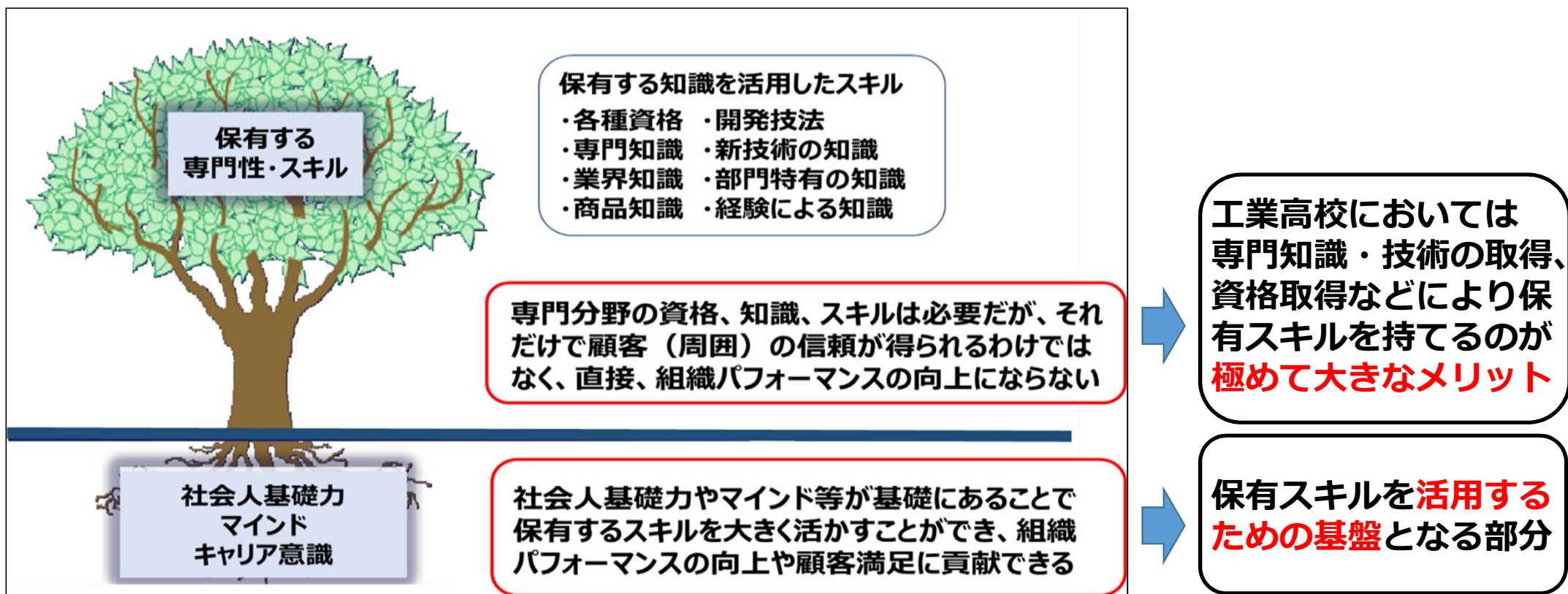
などを用いて、若手社員（職員）に求められる項目を挙げていきます。



## 令和4年度 最初に取り組む項目

## 次世代マイスターに求める条件の明確化

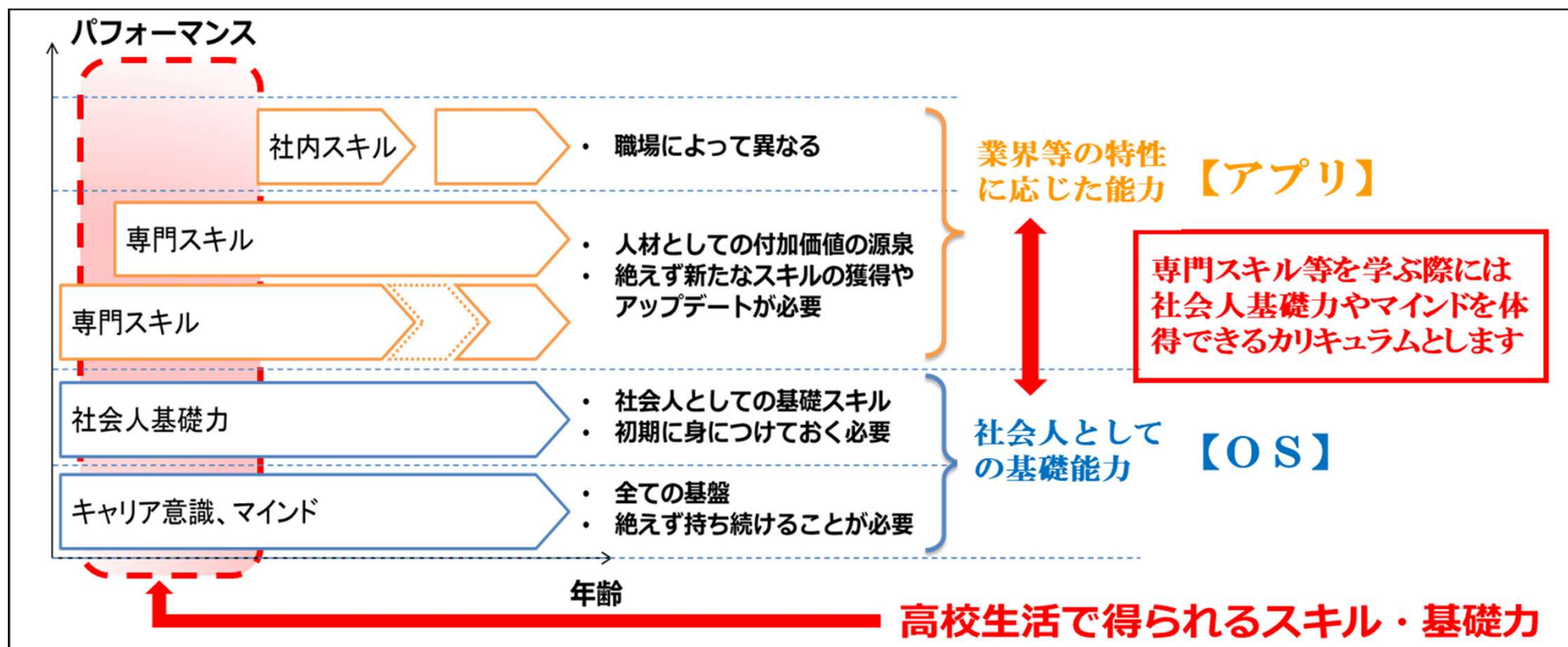
「次世代マイスターの育成」は、工業高校在学中のみで完成することではなく、就職後にマイスターになれるかどうかは、本人の基礎力やマインドが極めて重要となります。したがって、在学中の育成目標としては、技術の習得とともに「**就職後もマインドを保つための基礎をしっかりと身につけさせる**」ことが重要と考えます。



# 令和4年度 最初に取り組む項目

## 次世代マイスターに求める条件の明確化

経済産業省が2018年に公表した「人生100年時代の社会人基礎力」の説明資料は**アプリ**と**OS**という表現で記載していますが、工業高校は、専門スキルの習得とともに社会人基礎力、キャリア意識、マインドが学べる場であり、人生100年時代の働き手としての**先行メリット**を得られる**絶好の場**と位置付けることができます。







## ■ 現状認識 【既に産業人材育成を目指して各種施策に着手済】

「既に産業人材育成を目指して各種施策に着手済」ならば  
マイスター・ハイスクール事業はどう進めるの???

- ・ 案①従来路線を無視(または否定)して新たにスタートする
- ・ 案②従来路線を踏襲する
- ・ 案③従来路線を一部修正する
- ・ 案④従来路線にプラスアルファする

本校は本事業独自の施策に加えて、今日までの数々の取組みを

**「マイスターハイスクール事業の視点で再構築する」**

**方法を採用しました。**

## ■ 本事業と既存施策との関係についての基本的考え方

「マイスター・ハイスクール事業の視点で再構築する」  
際における基本的考え方

既存の計画・施策（試行）は教職員自ら

「より大胆にチャレンジ」

初年度（令和4年度）の新たな企画案は

「まずやって（試して）みる」

## □ 「マイスター・ハイスクール事業」の視点で再構築した施策

### 【その1】 教員による大胆なチャレンジ 「教科等横断的な視点」からの取り組み

#### ■ 科目横断型授業（4科目横断授業）

##### ■ 国語科、理科、家庭科、工業科の4科目横断型授業

国語科で取り上げた教材を題材に、家庭科、理科、工業科が、サステナブル、生物濃縮、適応放散、適材適所、「作る立場 使う立場」など各科目の視点から授業を実施。

「何事にも繋がりがあがる」「複数の視点で見る（考える）ことができた」「他の教科と繋げることで考えが広がる」「より理解が深まる」など生徒からも大好評。

（状況把握力・観察力・課題発見力の育成）

#### ■ 学科横断型授業

##### ■ 電子機械科の生徒に建築科の教員による「軽量かつ強度ある工法の理解・習得」授業の実施（軽素材を使用して橋の模型を作成し、作成した模型の耐荷重診断実習）

機器設置環境および隣接する業務に関する理解を促進

（周辺業務への理解、協働する力、共感力の育成）



## □ 「マイスター・ハイスクール事業」の視点で再構築した施策

### ■ イマドキのテーマで生徒の興味を惹き 能力向上を期す授業

#### ■ 読み解く力（文章理解力）の育成 「キーワードの抽出」「カテゴリ分類」

徒然草の古文、口語訳に加え、「もし兼好がこれをSNSに投稿したら・・・」という仮定の文章を提示し、生徒に「**#ハッシュタグ**」を作成させる演習などを実施

#### ■ 情報の収集・分析・活用能力の育成（意識/無意識の情報操作の恐さを知る）

1年1組の生徒にファストファッションの「利点が記載された」ウェブサイトの情報を数点、2組の生徒に「弱みや課題が記載された」ウェブサイトの情報を数点与え、各組においてエキスパート活動に取り組んでもらう。その後、1組2組の合同授業を開催し、両クラスが同数となる班をつくりジグソー活動を行う。ジグソー活動当初は生徒たちが大いに混乱するが、次第に各々の持つ情報の違いに気づいて相互理解を深めていく。生徒たちは偏った情報の偏重による弊害や相互理解の大切さを実感する。生徒同士の混乱ぶりを間近に見た教師側も教育における情報操作の危うさを再認識して身の引き締まる思いをすることになる。

## □ 「マイスター・ハイスクール事業」の視点で再構築した施策

### ● 【その2】 産業実務家教員との協働の拡大

#### ○ 産業実務家教員との協働による授業（年間指導）

- 埼玉県における高温の出現状況の統計的解析およびモニタリング技術 資料1参照  
(8月開催の研究会を事前に報道発表、地元TV局のほか新聞3社が取材・報道)
- ドラム缶を再利用したピザ窯づくり
- 鉄道博物館に設置する踏切の開発

#### ○ 産業実務家教員との協働による授業（単元指導）

- 3Dプリンタ解体・組立
- 知的財産権に関する実用知識（予定）
- 新型レーザー切削機器取扱演習
- 生産管理（工程管理・品質管理）入門（予定）

#### ○ 工業技術研修センター機能（県内教職員対象「先端技術研修会」）

- 5軸マシニングセンタCAD/CAM研修 [集中指導(6日間)]
- BIM (Building Information Modeling) 研修 [講演・講話]

## □ 「マイスター・ハイスクール事業」の視点で再構築した施策

### ● 【その3】 STREAMS教育プログラムの開発

#### ○ STREAMS教育プログラムの開発

##### ■ 中高大連携STREAMS教育プログラム （市立中学⇒本校⇒日本工大の連携）

- ・ さいたま市中学校技術科支援 [ロボット制御プログラミング]

##### ■ 高校生が先生となる「ものづくり教室」

- ・ 中学生対象 「3Dプリンターを使ってみよう！」 [主催：隣接中学校]
- ・ 小学生対象 「LEDイルミネーションをつくろう！」 [主催：地域公民館]
- ・ 小学生対象 「ロボット工房：ロボット製作教室」 [主催：さいたま市] 他



## □「マイスター・ハイスクール事業」の新たな取り組み

### ●育成したい（されたい）【資質・能力】の検討

#### ○次代を担う産業人材の資質・能力とは・・・

##### ■学校側の自己満足で終わらない「育成すべき資質・能力」の検討

- ・ 先行研究、溝上先生他先輩諸兄の調査研究、産業界の人事評価制度のトレンドおよび人事評価項目を参考に、入社1年～3年程度の評価項目を細分化したコンピテンシー表（仮称）を作成

##### 細分化の例

- ・ 「コミュニケーション」を表現力、伝達力、傾聴力、共感力などに分割
- ・ 細分化した資質・能力を「基本となる力」「習得する力」「体得していく力」に仮分類し、上位レベル、基準レベル、NGレベルを明記

##### ■作成した資質・能力案をベースに関係者と協議

- ・ 教師、生徒、保護者、採用企業の人事担当者など多くの関係者と意見交換しつつ順次ブラッシュアップしていく。（時代とともに変化する前提で作成する）

## ● 今年度内に計画中の活動

### ○ 可能なチャレンジは今年度（2学期3学期）から実施

◆ 企業主催の新入社員研修の聴講（企業が求める（育てる）人材像の検証）

◆ 埼玉県経営者協会との共催による〈進路フェア〉の開催

◆ 人的ネットワークの一層の拡大

（各種セミナーや勉強会を通じて、ロボット産業などの先端企業、先端技術研究の学術機関・大学関係者との人的ネットワークの拡充に努め、連携候補先を増強）

◆ 工業高校の最近の取組みのアピール

都市部近郊では工業高校の新たな取組みを知らない親世代の「工業高校はチョット」という「負のイメージ」が払拭できておらず、親と仲良し世代の中学生に本校を志望させることは難しく、オープンかつ地道な活動により好感度を上げていく活動を継続する。

## ● 今期の課題と来年度の予定

### ○本校の取組み、教育内容等の県民への浸透

#### ◆本校が教育目標に掲げている【目指す学校像】

日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成  
～中学生に憧れを！ 在校生に自信を！ 卒業生に誇りを！～

中学生やその家族・保護者が、本校の様々な取組み、教育内容、雰囲気などを理解してくれない限り、中学生に憧れを持たれない・・・

- ・ 様々な取組みをホームページで紹介しているが、まだ浸透の余地は大きい
- ・ 最近の工業高校の進化と世間一般の工業高校のイメージとの格差解消  
(中学生本人・家族、中学教諭など教育関係者、県内企業の採用担当者・・・)



## ● 今期の課題と来年度の予定

### ○ 「コンピテンシーと基礎学力」の両立・育成

#### ◆ 「コンピテンシー表」(仮称)の充実とカリキュラムへの反映

- ・ 生徒会、保護者、教師等の意見を反映して内容を充実、具体化
- ・ 工業技術基礎、情報技術基礎、課題研究の授業への反映
- ・ 学科横断、科目横断型授業によるコンピテンシー強化策の検討

#### ◆ 「基礎学力」を効果的に強化する方法の探求とカリキュラムへの反映

学力養成委員会による検討結果をベースに協議

## ● 今期の課題と来年度の予定

### ○ 地域連携

#### ◆ 「地域ものづくり企業」との連携の強化

インターンシップ先の拡大（業種など）

#### ◆ 工業技術研修センター（仮称）構想の具体化」と「地域スタートアップ企業」との新たな枠組づくり

スタートアップ企業が本校設置の先進機器の利用ができ（遊休時間の機器活用）、生徒が創業を目指す人の情熱を身近に感じることができる〈場〉として、また、県内の工業科の教師達の研修や研鑽の〈場〉として・・・

工業技術研修センター（仮称）構想の具体化

終